

## 駆け寄ってくださる神

ルカによる福音書一五章11〜24節

そこで、彼はそこをたち、父親のもとに行つた。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思ひ、走り寄つて首を抱き、接吻した。(20)

有名な「放蕩息子」の譬えです。父の家を飛び出した息子は、父なる神から離れて生きる私たちの姿です。父の家を捨てた彼は、自己の存在価値さえも見失うほどになってしまいました。これこそ、キリストのまなざしに映る人間の真相です。人生の悲惨さは、父なる神から離れて生きることの原因があります。父の家に帰ろうとした息子には、息子と呼ばれる資格などないという拘りがありました。ところが父は、息子を見つけて走り寄り、大喜びで迎え入れました。神と人間の間に深い断絶は、神の憐れみによる駆け寄りによって乗り越えられたのです。神は私たちが悔い改める前に私たちを赦し、私たちのところまで駆け寄つていてくださいます。御子イエスが人となってこの世に来てくださった事実には、「さあ、帰っておいで」と招く神の姿が見事に表されているではありませんか。